



やなぎ美智子からのお便り

事務所：市川市鬼高2-5-16 清央荘101号室

メールアドレス：kangoshi@hotmail.co.jp

やなぎ携帯：090-1508-7120

**ロシアはウクライナ侵略を
直ちにやめよ！
核による威嚇は許されない！**

2月24日、ロシア軍がウクライナへの本格侵攻を開始しました。25日、首都キエフにも攻撃が行われ、民間人を含む多数の人々が犠牲になっています。他国の主権・領土を侵す野蛮な行為は、国連憲章に基づき平和の国際秩序を根底から突き崩すものです。

プーチン大統領は「ロシアは世界で最も強力な核保有国の一つである」と述べ、ロシアへの攻撃に核兵器で対応する姿勢を示しました。被爆者をはじめ、世界各地で抗議の声が巻き起こっています。昨年、「核兵器禁止条約」が発効して一年が経過しました。この条約の意味が、益々大きくなってきました。日本政府が、一刻も早く批准することを求めましょう。

チェルノブイリ原発を占拠し、ザポロジエ原発を攻撃したことへの不安と、批判が高まっています。危険性が浮き彫りになった原発は、日本でも廃止するべきです。



2月25日下総中山駅 浅野ふみ子県議候補と



キエフ郊外 戦場からの画像 (msnニュース)

市川市長選挙と市議会議員補欠選挙は3月20日告示・27日投票です

立候補表明したこと、市民から、驚きと怒りの声が寄せられています。市川の恥・自分のことしか考えていない、趣味の車に市民の税金を使うなど許せない・市からの支援だといっても票集めにしか思えない・・・村越市政継続は許しません！

村越市政に対し、日本共産党は厳しい態度で臨んできました。高級電気自動車テスラ、秘密裏に市長室に設置したガラス張りシャワー、1億5千万円の市役所新庁舎の中央階段、新型コロナウイルス接種をめぐる大混乱、議会で否決されたパワハラ調査委員会設置を最優先し、市民サービス予算が否決される事態を招き、「私設秘書逮捕」については「何ら関係ない」との態度をとり続けています。



無料法律相談

4月12日 (火) 午後2時～5時 市役所第一庁舎6階共産党控室

相談を希望される方は事前予約が必要です。市役所共産党控室か、やなぎ美智子にご連絡ください。

電話：047-334-1111 (内線18218)

**2月市議会は2月8日開会、3月4日閉会しました。
21日代表質問を廣田議員が、22日一般質問形式
でやなぎ、清水議員、金子議員が行いました。
4日令和4年度市川市一般会計予算に対する反対
討論を高坂議員が行いました。**



○オスプレイ市上空飛行

(やなぎ) 昨年12月2日のオスプレイ市上空飛行を認識していたのか。事前に市民に知らせることは出来ないのか。

(答弁) オスプレイ飛行を、自衛隊は非公開としている。木更津駐屯地と群馬県相馬原駐屯地間を飛行した際、市内上空を飛行したと自衛隊に確認した。今後、市内上空飛行に関する情報提供があったら市民の皆さんに周知する。

(やなぎ) 墜落や緊急着陸している危険な軍用機だ。市民が事故に巻き込まれる恐れがある。目撃情報に丁寧に対応してほしい。木更津配備撤回、訓練中止を求める。

○介護職員の処遇改善

(やなぎ) 国費での介護職員の処遇改善、月額9千円賃上げ(2/9月)実現に向け、市はどう対応しているのか。

(答弁) 事業所が申請する場合、県に賃金改善計画書を提出し、認可後に補助金を活用した賃金改善実績報告をする。市は、事業所からの申請もれないように制度周知を行っているところだ。

(やなぎ) 10月以降は、介護報酬上での対応になり、自治体やサービス利用者、被保険者の新たな負担が懸念される。後期高齢者医療費の窓口2倍化が予定され、介護保険施設利用者の負担が昨年8月から約2倍になっている。これ以上の負担は無理ではないか。

(答弁) 介護保険制度の持続可能性確保の観点から、給付と負担の見直しがされてきていると認識している。

(やなぎ) 社会保障審議会で、介護職員の賃上げは介護報酬改定でとの案に対して、「利用者負担や保険料増大につながる」と異論や批判が出た。市が独自の支援策で市民を守りながら、国の責任を求めていくことを要望する。

○介護施設等整備事業



(やなぎ) 介護職員や看護師の確保が困難な中、介護と医療が必要な在宅療養者が増加している。それに対応する定期巡回・随時対応型訪問介護看護は、募集しても応募がない。看護小規模多機能型居宅介護施設は、一つもない。退院直後、ガン末期等の看取り期、介護者へのケアや相談等は経験豊富な専門職の確保が必要だ。医療機関との連携もこれまで以上に求められる。市はどのように整備していく予定か。

(答弁) 特別養護老人ホーム、認知症対応型グループホームなどは公募への応募がある。定期巡回・随時対応型訪問介護看護は応募がなく、看護小規模多機能型居宅介護は、公募直前に辞退となった。この事業は、経験のある看護師が求められ、夜勤もあり、コロナ禍で、人材確保が一層困難になっている。高齢化が進む中で、医療と介護両方を必要とする方の増加が見込まれる。そのため必要不可欠な定期巡回・看護小規模事業の整備を進めていきたい。

(やなぎ) 「募集しても応募がないので計画は先送り」では何のための計画か。計画策定に向けて「市民等意向調査」が実施された。市には、市民の意向を実現する責任がある。市長は「在宅医療と介護の連携のもと、住み慣れた自宅で安心して最期まで暮らし続けることができることをめざして計画を策定した」と述べている。整備が計画倒れにならないように求める。

